

①

ちょっと前まで、
日本の年金や、
医療システムは
世界に誇れるものだった。

基礎年金は、
25年以上の納付期間を経て
65歳から支給される。
40年間加入していた場合、
満額で年79万2100円(月額6万6008円)が
生涯支給される。
これは福祉国家の代表格
スウェーデンより多い。

日本は全国民が何らかの健康保険に
加入している国民皆保険。
医療費のGDP比は約8%と
OECD諸国で21位の低さ。
日本人は中くらいの医療負担で
医療サービスを受けられる
恵まれた生活を続けていた。
けれど、そんな幸せな時代は
もう終わった。

年金、医療システムは
崩壊の瀬戸際に来ている。

②

1950年代までは働いている人と
年金受給者の割合は **10:1**。

それが **2000年**には **3.6:1**、

20年には **2:1**、

50年には **1.4:1** になる

昔ながらの古き良き
世代間扶養の制度を、
少子高齢化社会で維持するのは
無理なのだ。

また国民の医療費は

08年で **34.6兆円** だが、

高齢化の
進行で

15年には **40兆円**、

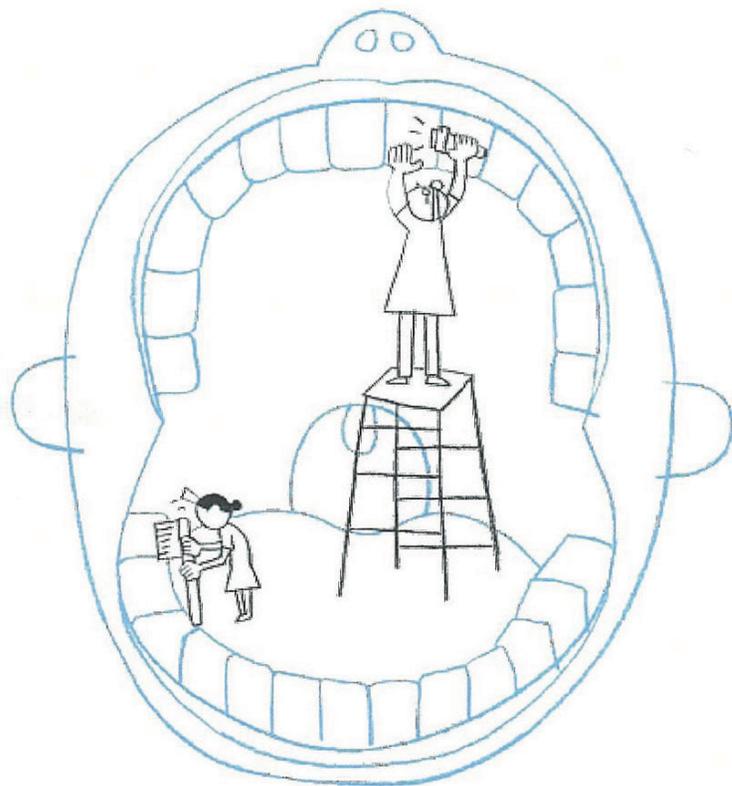
25年には **50兆円** になると
推計される。

税収をそっくり回しても
赤字になる額である。

③

医療について語ろうとすると
 すぐにお金の話になってしまうが、
 その前に健康の尊さ、
 健康を守るための予防医療、
 介護予防の話をしよう。
 病気が予防できたら本人もハッピーだし、
 家族も幸せ。
 そのうえ、必要のない医療費が
 使われることもない。

病気は日常のちょっとした心がけで
 予防できる。
 たとえば、
 歯磨きを励行する老人ホームでは、
 寝たきり率が低くなる。
 歯は健康の元。
 自分の歯が残っていれば、
 食事が美味しく食べられて、
 いつまでも元気でいられる。



④

介護予防も大切である。

デンマークには寝たきりの人がほとんどいない。

寝たきりになるとコストがかかるので、

ボランティアなどが高齢者の活動を

支援して自立を助けているからだ。

日本の高齢者はじっと家において、

介護が必要になるのを待っている。

もっとシニア層がアクティブになる

仕組みをつくろう。

日本人は世界一長生きだし、

実はとっても元気。

65歳以上で介護が必要になるのは

6人に1人。

高齢化社会に必要以上に

暗いイメージはいらない。

高齢者の大半は亡くなる寸前まで

元気に過ごせる。

元気な高齢者のための

楽しいコミュニティをつくれば、

高齢者が

日本を元気に

してくれるはずだ。

⑤

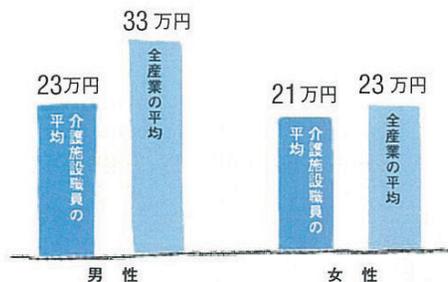
ここで介護をする側の人のことを考えてみよう。

福祉施設介護員の平均月収は

男性23万円、女性21万円。

一般労働者の平均は

男性33万円、女性23万円。



介護保険サービスの値段である介護報酬は、09年に3%引き上げられたけれど、まだまだ低い水準である。

2030年には介護従事者が

419万人必要になるが、

このままでは

325万人が不足すると

考えられている。

雇用の機会と捉えて

成長産業にすべきではないか。